

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 I IV V 】
2 実施対象者	石巻市立蛇田中学校 対象学年 全学年 生徒数 621名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（親子大運動会前日祭・蛇田祭（文化祭）） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックの精神を学び、オリンピック・パラリンピックへの理解を深めさせながら興味・関心を高めたい。 ○1964年東京オリンピックの聖火台に全校生徒の思いをのせて点火し、石巻の元気な姿と感謝の気持ちを東京オリンピック2020で伝える機会としたい。
5 取組内容	(1) ニュースポーツ「BMXパフォーマンス」にふれる ・レットブル・ジャパン(株)来校 BMXフラットランドライダー 世界チャンピオン 内野洋平さん・田円尚人さん ・阪神淡路大震災を経験した内野さんがBMXに出会い、夢中になっていった過程を東日本大震災と重ね合わせながら夢はかなうものと語りかけ、生徒にパフォーマンスをしながら学年代表生徒に手解きをした。オリンピック種目以外のスポーツに触れ、スポーツ種目の幅を広げることができた。また、夢を持つこと、かなえるための努力を惜しまないこと、チャレンジ精神で挑戦することの大切さを学んだ。
	 

## (2) 親子大運動会前日祭（聖火リレー）

- ・石巻市総合運動公園：1964年東京オリンピック聖火台への点火
- ・体育館：同時中継

石巻市体育協会と石巻市地域振興課スポーツ交流推進室の協力を得ながら進めた。生徒の活動は、生徒会、運動会実行委員会を中心に企画・運営した。

### 【案】

- ① 出発式
- ② 聖火リレー（中総体県大会以上に出場した部活動→各色のリーダー→運動会実行委員長）

\*聖火台を磨こうという案も出て、全校から磨き隊を募集した。

### 【当日の流れ】

- ① 出発式（聖火を校長から生徒会長へ）
- ② 聖火台磨き
- ③ 石巻市総合運動公園での聖火リレーと点火
- ④ 石巻市体育協会会長伊藤和男様から「被災地の希望—Tokyo2020を被災地から見る」と題しての講話
- ⑤ 運動会色別団長からの決意表明
- ⑥ パフォーマンス（人間五輪）

- ・体育館で同時中継し、石巻市総合運動公園班と学校班に分かれての実施となった。
- ・保護者へ案内を出し、73名の見学者が石巻市総合運動公園に集まり見守っていただいた。
- ・終了後の生徒の感想から、「感動した」「聖火リレーは初めて見た」「来年度もしてほしい」「同時中継で全校生徒が参加できてよかった」「本物のオリンピックの聖火台へ点火された瞬間はとても感動した、オリンピック・パラリンピックへの関心が高まった、来年もしたい」などの感想があった。
- ・1964東京オリンピックの聖火台への点火は、親子大運動会を盛り上げ、聖火について興味関心を示した生徒が多かった。また、オリンピック・パラリンピックは、競技スポーツと捉えがちだが、さまざまな分野が関係してのオリンピック・パラリンピックの開催であることに気づき視野を広げることができた。





(3) 蛇田祭（文化祭）ステージ発表・展示発表

- ・蛇田祭（文化祭）は、総合的な学習の時間を1～3年生を縦割りにし、23チームに分かれ、ステージ発表と展示発表で実施。「学ぶ、観る、する、支える」の4観点から進めた。生徒は、計画的に取り組み、探究しながら学習を進め発表した。
- ・「新聞でまとめよう」と題してオリンピック・パラリンピックについてのコンクールを開催した。
  - ① 学級ごとにテーマを決め、新聞記事を切り抜き、感想等を加えてまとめ展示発表をした。最優秀賞、優秀賞、特別賞を発表し手作りメダルと一緒に表彰した。
  - ② オリンピック・パラリンピックについての新聞記事を集めようと夏休みの宿題で提示し蛇田祭前まで興味関心のある記事を集めた。その記事からテーマを決め、記事を張り付け、コメントを書いて、オリンピック・パラリンピックについて深めていった。
- ・これまでの石巻市の取組にも着目し7月と8月のオリンピック・パラリンピックの活動から試行錯誤しながらも意欲的に取り組んだ。
- ・日本体育大学の学生が作成したオリンピック・パラリンピックの歴史とクイズに積極的に参加し全校生徒の関心がとても高まった。



6 主な成果

○東日本大震災の復興が進む中、石巻の街は整備されつつあり、自治体もさまざまな動きがある。中学生として出来る事を考え、災害にあった地域への募金活動や奉仕活動を生徒会でやってきている。今回は、全校生徒がかかわる企画として1964年の聖火台にこれまでの感謝の気持ちと元気な姿を発信できる機会となった。生徒の感想から「点火の瞬間、迫力があってすごい。」「石巻市体育協会の会長さんが話されていた東京オリンピック2020への関わり方を知った。何らかの形で参加し、応援していきたい。」という感想がたくさんあり、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まった。

	<p>○蛇田中学校オリンピック・パラリンピック委員会を発足し、生徒会と専門委員会との連携を図ることで全校生徒の活動意欲が高まった。特に、運動会実行委員会は、例年の内容に加え生徒会執行部と企画・運営をしたので例年以上の高まりを見せた。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックの捉えとして、全校生徒の6割が競技スポーツの祭典という捉えでいたが、BMX パフォーマンス、聖火リレーと1964年東京オリンピックの聖火台への点火、新聞記事からまとめる活動を経て、競技への関心だけでなく、競技を開催するためのサポーターや企業の役割等にも目を向けるようになった。また、オリンピック・パラリンピックは、平和の祭典であるということに気づくことができた。</p> <p>○蛇田祭（文化祭）では、総合的な学習の時間を1～3年生を縦割りにし、23チームに分かれ、発表を最終目的として考え実施している。オリンピック・パラリンピック教育全体計画の「4×4の取組」における指導の重点から「学ぶ（知る）、観る、する（体験・交流）、支える」の4観点を実施することができた。活動を振り返ると主体的に取り組み、探究的に学習を進め、オリンピック・パラリンピックとの関りを視野に入れながらひとつのものを創りあげた。発表は、ステージと展示に分かれ、盛り上がりを見せた。</p>
<p>7実践において工夫した点 （事業の特色）</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック教育全体計画を作成し進めた。教科等におけるオリンピック・パラリンピック教育のねらいを提示し、日常的な指導も加えて実施した。</p> <p>○生徒会を軸にして、各行事にオリンピック・パラリンピック内容を加えた計画と実践になるように進めた。</p> <p>○1964 東京オリンピック聖火台への点火は、各関係機関、父母教師会等の協力のもとに進めた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック教育全体計画の「4×4の取組」における指導の重点4×4の取組で、「学ぶ（知る）、観る、する（体験・交流）、支える」の観点から考えると「支える」の活動実践ができなかった。募金活動や石巻支援学校との交流会（1年次）を行っているが、社会貢献、ボランティア、おもてなしの点から視野を広くして考え実践できる機会を計画的に設け意識を高める。</p> <p>○教育課程の編成とオリンピック・パラリンピック教育全体計画からの実践をするために、校内オリンピック・パラリンピック委員会を細目に関き、共通理解のもとで進める。</p> <p>○志教育が組まれている横断的な取組の進め方を工夫したい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○パラリンピックについて理解を深めるために、実際に体験し障害をもつ方から話を聞いたり体験したりする機会を設けたい。</p> <p>○保健体育の指導の中でスポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学びを推進していきたい。</p>